

6.3 教育方法のあり方

進捗状況報告

【6.3.1授業形態と授業方法の関係】

シラバスの作成によって、授業の内容が明確に提示されるようになった。シラバスの中では授業の目的や授業形態も提示されており、効果的な授業となるよう、FD研修会を通してシラバスの作成、授業方法の改善について継続的に研修を行っている。

実習科目については、2007年度より充実を図る施策を行ったが、2008年度はさらに内容や開講形態についても精査し、充実を目指す予定である。

学内第三者評価

一定の施策が実行されていることが認められる。遠隔地学生の指導については、定期的（各 Semester 毎）に大学に呼び寄せて教員の指導を受けさせること、また、そのための経済的援助をすること、さらに、学期中はメール等によってレポート提出を求めることなど対応策が考えられる。いずれにしても、在学が長期間に渡らないような配慮が望ましい。